

# 学級づくりのためのショート・プログラムの開発

—ポートフォリオによる振り返り活動の実践を通して—

\* 佐 藤      静 • \*\* 大 瀧      優

A Practical Short Program for Classroom Management in an Elementary School

SATO Shizuka and OTAKI Yu

## Abstract

The purpose of this paper is to contribute to classroom management by showing a model of a practical short program in an elementary school. The short program structured according to the school year events aims to promote self/other understanding and to improve children's relationships and adaptation of school life. The program is easy to operate at daily startup meetings. The effect can be measured by using a scale to obtain the conditions at both the individual child and whole class level. It is necessary to consider program implementation in various grades, achievements throughout the year, and cumulative achievements in many years of school life.

**Key words :** Classroom (学級)

Daily startup meeting (朝の会)

Relationship (人間関係)

Management (マネジメント)

Short program (ショート・プログラム)

## 1 本研究の課題と目的

学級を担任する教師にとって、児童生徒どうしや教師と児童生徒との人間関係づくりは、学級経営上の大きな基本的課題である。特に、対人関係やコミュニケーションを含む社会生活面に困難や苦手さがある児童生徒が複数存在する学級では、集団づくり等の学級経営上の困難が大きくなる。また、児童生徒の立場からすれば、多様な個性をもつ子どもたちが混在する学級環境は人間関係や集団活動等において戸惑いや困難に直面する場面も多く、適応はより難しいものとなると考えられる。発達障害のある児童生徒を含めて、対人関係やコミュニケーションに苦手さがある児童生徒は特にそうした困難を抱えやすくなると推測され、適切な

支援・対応方法を検討することが求められる。

学級における人間関係づくりは、共生社会を築くための基礎的で重要な教育の機会と位置づけることができ、これまでも多くの取組がなされてきている。仙台市の自分づくり教育の一環として学校現場に導入されている「たくましく生きる力育成プログラム（略称：たく生き）」もその一例であり、教員らによる多様な観点や目的から作成された授業プログラムが多数蓄積されている。その手引き資料である『たく生き授業プラン集』（2019年3月発行版）の中の人間関係づくりや自己理解・他者理解等に関連するものとしては、相手を気遣う、気持ちを伝える、よい関係を築く、仲間と助け合う、相手の意をくむ、自己理解・他者理解、自分のよさや価値に気づく、いろいろな気持ちを知る、

---

\* 宮城教育大学教職大学院

\*\* 宮城県大和町立鶴巣小学校、宮城教育大学教職大学院10期生

自分の気持ちをコントロールする等のテーマによる授業プラン案が提供されている。それらの授業プランは、教育課程上は教科・特別活動・道徳・総合的学習の時間などを横断する形で位置づけられており、基本的に一コマ45分で構成されているものが多い。そのため、それらの授業プログラムを実施するためにはまとまった時間の確保が必要であり、年間を通して常時続けて実施することは物理的にも困難と考えられる。そのため、児童生徒の学級適応を促進し、より確実に定着させるためには、日常的な積み重ねができるより簡便なプログラム（ショート・プログラム）が必要であると考える。

以上の観点から、本論では小学生の人間関係やコミュニケーション等の社会性の育成を目指したショート・プログラムの実践的モデルを紹介して、学級経営に資することを目的とする。このショート・プログラムは筆者のひとりである大瀧が教職大学院在学時に研究・開発したものであり、大学院における発表の機会には述べるができなかった実践方法の全体及び詳細や新たな考察等を整理し直して報告するものである。

## 2 ショート・プログラム「ハートフル研究所」について

本章では、プログラムの検討・開発の経緯を含めてその実践方法を述べるとともに、年間の学校行事との対応及びプログラムを実施するための実態把握と効果測定について述べ、それらを一体化した総合的な実践的取組としてのショート・プログラム「ハートフル研究所」について説明する。

### (1) プログラムの検討と実践方法

人間関係やコミュニケーション上の困難をかかえる児童に対して、通級指導などの形で個別にソーシャルスキルトレーニングを実施することがある。しかし、そのような個別の学習経験を実際の教室における人間関係やコミュニケーションに活かすことが難しいことも多い。教室には多様な個性と複雑な人間関係が存在し、めまぐるしい状況変化も日常的に頻繁に起こるためである。そのため、実際の教室場面において児童全員でソーシャルスキルトレーニングを経験して、児童全員の社会性を向上させることが必要であり、より有

効ではないかと考えた。学級に在籍する児童全員の社会性を向上させることが、より安定した学級づくりにつながると期待される。

なお、ここでとりあげる社会性については、國分ら(1999)を参考にして、①あいさつ、②自己紹介、③上手な聞き方、④質問する、⑤仲間の誘い方、⑥仲間の入り方、⑦あたたかい言葉がけ、⑧気持ちを分かって働きかける、⑨やさしい頼み方、⑩上手な断り方、⑪自分を大切にすること、⑫トラブルの解決策、の12個を設定した。

学校のカリキュラム上、日々の授業時数を社会性育成の機会に充てることには困難があるため、プログラムの開発にあたっては5～10分程度の短時間で実践できるショート・プログラムの形にすることを検討した。実際には、大瀧が所属したA小学校の5年生における実践と検討を通して、毎朝行っている朝の会で無理なく継続的に実践できるプログラムを作成した。プログラムの内容は、後述する社会性育成年間計画と対応させ、振り返り活動とポートフォリオによる評価の蓄積ができるように工夫した。

プログラムは基本的にペア活動で行い、毎日の朝の会において違う相手と実践する形にした。毎日違う相手と活動することで、多様な個性をもつ児童どうしが関わりをもつことができ、より豊かな社会性の育成につながると考えたからである。心理的な安全面についても考慮して、活動に抵抗がある児童についてはその心情を尊重して、無理に参加させないよう対応するなどの個別の配慮を行った。プログラムの具体的な流れ(手続き)は以下の通りである。

**プログラムの実践例1:**取り扱う社会性のテーマは「あいさつ」

#### ① ペアをつくる

毎日違う相手とペアをつくる(例:月曜日-隣の人、火曜日-後ろの人、水曜日-斜めの人、木曜日-自由1、金曜日-自由2)

#### ② ペアになった相手と「振り返り」に使うファイルを交換する

(「振り返り」と使用ファイルについては後述)

#### ③ ペアでジャンケンをする

#### ④ ジャンケンで勝った方から相手にあいさつをする(例:「おはようございます」)

- ⑤ ジャンケンで負けた方が相手にあいさつをする  
(例:「おはよう」)
- ⑥ ②で交換したファイルお互いに相手のあいさつのよいところを記述して振り返る
- ⑦ 振り返りファイルを相手に返す

**プログラムの実践例2:** 取り扱う社会性のテーマは「あたたかい言葉がけ」

場面は「運動会のリレー競技でバトンを落としてしまったとき」と設定する

- ① ペアをつくる(方法は実践例1と同様)
- ② ペアになった相手と「振り返り」に使うファイルを交換する
- ③ ペアでジャンケンをする
- ④ ジャンケンで勝った方から相手にあたたかい言葉がけをする  
(例:「大丈夫だよ、次の人が頑張ってくれるから」)
- ⑤ ジャンケンで負けた方が相手にあたたかい言葉がけをする  
(例:「一生懸命にやったんだからいいんだよ」)
- ⑥ ②で交換したファイルお互いに相手のあたたかい言葉のよいところを記述して振り返る
- ⑦ 振り返りファイルを相手に返す

ここでは二つのプログラムの実践例を紹介したが、どの社会性のテーマを扱う場合でも基本的な流れは変わらない。「あたたかい言葉がけ」では学校で起こりうる具体的な場面を想定しながらプログラムを実践している。運動会のリレーの場面を想定した場合、バトンを落としてしまった相手にどんな言葉掛けをすればよいかを児童が考えて、実際に相手に言葉をかけてみることになる。想像上の設定場面において、どのような声がけをすればよいかを考えて実際に声がけすることで、実際に運動会で同様の失敗をしてしまった

相手に対して、どのように対応すればよいかを練習／リハーサルする機会となり、人間関係やコミュニケーション場面などにおける社会性の向上につながると考えられる。

また、プログラムの実施場面では非言語的な部分を重視させるように働きかけた。具体的には視線や表情、しぐさ、姿勢などであり、相手の非言語的な表出を意識させることで、普段は意識していない部分を意識したり、相手の新しい一面を発見しようとしたりする態度につながると考えたからである。

## (2) 社会性育成年間計画について

学校では一年を通して時期に応じた様々な行事が設定されており、児童にとっては成功や失敗を含めて様々な体験を積み重ねる大事な教育的機会となる。この学校行事を社会性育成の機会ととらえて、どの時期にどのような社会性を育成するかを年間計画に組むことで、各学年の一年間を通して身につけさせたい社会性が明確になると考えた。小学校第5学年を例として、学校行事と対応させた育成したい社会性を表1に示した。

例えば4月は入学式や始業式があり、クラス替えや新しい仲間や担任教師との出会いの時期である。児童は期待と不安が入り交じった心理状態であると考えられるから、「あいさつ」や「自己紹介」という社会性のテーマを意図的に設定する。5月の運動会や6月の野外活動、9月の陸上大会などがある時期には、児童が様々な失敗や自信を失うような体験をする可能性もあることから、「あたたかい言葉がけ」という社会性育成の機会ととらえてテーマを設定する。8月の夏休み明けの始業式の時期には、学校生活のスムーズな再スタートができるように、あらためて「あいさつ」や「自己紹介」のテーマを設定している。このように学校行事の特性をふまえながら、それと関連する社会性の

表1 小学校第5学年を想定した社会性育成年間計画の例(4～9月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
学校行事	入学式 始業式	運動会	プール開き 野外活動	終業式 夏休み	夏休み 始業式	陸上大会
社会性	・あいさつ ・自己紹介	・あたたかい言葉 掛け	・あたたかい言葉 掛け ・友達の誘い方	・仲間への入り方	・あいさつ ・自己紹介	・あたたかい言葉 掛け ・上手な断り方

テーマを組み入れることで、年間を通して計画的に人間関係やコミュニケーション上の困難を乗り越える力を学ぶことができると考えた。

さらに、このような計画表を各学年で作成して一覧表(表2)にすることによって、学校全体で学校行事を通してどのような社会性を系統的に育成すればよいかが明確になり、各学年が連携しながら新年度に向けた学級づくりに活かすことができると考える。宮城教育大学いじめ防止支援(BP)プロジェクト(2018)も学校の年間計画やイベントに対応させた各時期における支援例を提案しており、本研究の具体的な学校生活の推移と連動させた予防的・計画的な適応支援の狙いを共有するものである。

### (3) 振り返りシートとポートフォリオについて

プログラムの実践に合わせた振り返り活動については、プログラムを毎日実践する中で、相手から寄せられる評価(コメント)を通して自分自身の個性や特徴について理解する大事な機会であると考えた。その

ためのツールとして振り返りシート(図1)を作成した。

振り返りシートは、朝の会における限られた時間内の実践であるため、評価(コメント)を記述する時間や量を考慮した上で全体が見やすいマンダラ形式とした。マンダラ型に区切られた中央のマスに扱う社会性のテーマを示し、その周辺のマスにプログラムの実践相手からの評価(コメント)を記入してもらう。一日の実践で一マスを使い、一週間(5日間)で一枚5マスのシートを完成させることになる。一週間の最後に、各コマの記述内容を参考にして自分自身の社会性について振り返りを行う。図1は「あたたかい言葉がけ」について振り返りを行った例(仮想例)である。

この振り返りシートを順次ファイルに蓄積することでプログラムの活動を振り返るための一冊のポートフォリオになる。このポートフォリオを参照することで、自分自身の社会性の特徴について理解し、日々の人間関係づくりや学校適応に活かすことができると考えた。

表2 社会性育成年間計画表(小学校全学年)

社会性育成年間計画												
学校行事等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	入学式 新任式 第1学期始業式 学級開き 1年生を迎える会 家庭訪問 授業参観・PTA総会 学力テスト開会	運動会 家庭訪問 プール開き プール遊び 1年生を迎える会 家庭訪問 授業参観・PTA総会 学力テスト開会	体力テスト プール学習開始 第1学期終業式 (お楽しみ会) 個人面談 授業参観	修学旅行 第1学期終業式 (お楽しみ会) 個人面談 授業参観	第2学期始業式 野外活動 陸上記録会	(プール納会) 学習発表会	学習発表会	学習発表会	書き初め練習会 第2学期終業式 (お楽しみ会) 収穫祭 授業参観	第3学期始業式 書き初め練習会	授業参観	6年生を送る会
1年	①あいさつ ②自己紹介	⑦あたたかい言葉 ③上手な聞き方	⑤仲間の話し方 ④上手な聞き方	①あいさつ ②自己紹介	⑤上手な聞き方 ④上手な聞き方	⑥仲間の入り方 ⑤仲間の話し方	⑦あたたかい言葉 ③上手な聞き方	②自己紹介 ④質問する	⑤仲間の話し方 ④質問する	⑦あたたかい言葉 ③上手な聞き方	②自己紹介 ④質問する	⑤仲間の話し方 ④質問する
2年	①あいさつ ②自己紹介	⑦あたたかい言葉 ③上手な聞き方	⑤仲間の話し方 ④上手な聞き方	①あいさつ ②自己紹介	⑤上手な聞き方 ④質問する	⑥仲間の入り方 ⑤仲間の話し方	⑦あたたかい言葉 ③上手な聞き方	②自己紹介 ④質問する	⑤仲間の話し方 ④質問する	⑦あたたかい言葉 ③上手な聞き方	②自己紹介 ④質問する	⑤仲間の話し方 ④質問する
3年	①あいさつ ②自己紹介 ⑦あたたかい言葉	⑦あたたかい言葉 ③上手な聞き方	⑤仲間の話し方 ④上手な聞き方	①あいさつ ②自己紹介 ⑦あたたかい言葉	⑤上手な聞き方 ④質問する	⑥仲間の入り方 ⑤仲間の話し方	⑦あたたかい言葉 ③上手な聞き方	②自己紹介 ④質問する	⑤仲間の話し方 ④質問する	⑦あたたかい言葉 ③上手な聞き方	②自己紹介 ④質問する	⑤仲間の話し方 ④質問する
4年	①あいさつ ②自己紹介 ④質問する	⑦あたたかい言葉 ③上手な聞き方	⑤仲間の話し方 ④上手な聞き方	①あいさつ ②自己紹介 ⑦あたたかい言葉	⑤上手な聞き方 ④質問する	⑥仲間の入り方 ⑤仲間の話し方	⑦あたたかい言葉 ③上手な聞き方	②自己紹介 ④質問する	⑤仲間の話し方 ④質問する	⑦あたたかい言葉 ③上手な聞き方	②自己紹介 ④質問する	⑤仲間の話し方 ④質問する
5年	①あいさつ ②自己紹介 ③上手な聞き方	⑦あたたかい言葉 ③上手な聞き方	⑤仲間の話し方 ④上手な聞き方	①あいさつ ②自己紹介 ⑦あたたかい言葉	⑤上手な聞き方 ④質問する	⑥仲間の入り方 ⑤仲間の話し方	⑦あたたかい言葉 ③上手な聞き方	②自己紹介 ④質問する	⑤仲間の話し方 ④質問する	⑦あたたかい言葉 ③上手な聞き方	②自己紹介 ④質問する	⑤仲間の話し方 ④質問する
6年	③上手な聞き方 ④質問する ⑤仲間の話し方	⑦あたたかい言葉 ③上手な聞き方	⑤仲間の話し方 ④上手な聞き方	①あいさつ ②自己紹介 ⑦あたたかい言葉	⑤上手な聞き方 ④質問する	⑥仲間の入り方 ⑤仲間の話し方	⑦あたたかい言葉 ③上手な聞き方	②自己紹介 ④質問する	⑤仲間の話し方 ④質問する	⑦あたたかい言葉 ③上手な聞き方	②自己紹介 ④質問する	⑤仲間の話し方 ④質問する
アセスメント	社会性育成計画に基づく実践・評価(見込)	社会性育成計画に基づく実践・評価(見込)	社会性育成計画に基づく実践・評価(見込)	社会性育成計画に基づく実践・評価(見込)	社会性育成計画に基づく実践・評価(見込)	社会性育成計画に基づく実践・評価(見込)	社会性育成計画に基づく実践・評価(見込)	社会性育成計画に基づく実践・評価(見込)	社会性育成計画に基づく実践・評価(見込)	社会性育成計画に基づく実践・評価(見込)	社会性育成計画に基づく実践・評価(見込)	社会性育成計画に基づく実践・評価(見込)




**ハートフル研究所 ～ あたたかい言葉掛け 編 ～ 「クラスメイト」**

場所	教室	相手	気分はまあまあ	時間	授業
人数	1対1	自分	気分はまあまあ	場面	

名前 ( )

相手の良いところ、もっと良くなるためのアドバイスを書いてあげよう！ 目線や表情、姿勢や身振り  
手振り（しぐさ）を中心にしてみよう！他にも気付いた良い点について書いてあげてもOK！

やさしく言ってくれてうれしかった。	かたをたたきながら「大丈夫？」と言ってくれた。	えがおで「大丈夫だよ。」と言ってくれた。
やさしく言ってくれて心があたたかくなった。	 <b>あたたかい言葉掛け</b>	「大丈夫？」という声がやさしくて元気が出た。
声が明るくて、元気が出た。	目を合わせて言ってくれたので、なんだか元気が出た。	心配そうに言ってくれた。

☆みんなからのコメントを振り返って☆

私は、「大丈夫」という言葉をやさしく言えていることが分かりました。自分の言葉で、相手を元気にしたり、心をあたたくしたりできるということも分かりました。困っている人がいたら、自分から声をかけてみたいと思います。

図1 振り返りシートの仮想例（テーマは「あたたかい言葉がけ」）

#### (4) 児童と学級の実態把握とプログラムの効果測定について

プログラムや振り返り活動を実施する上で、学級における児童の実態や効果を確認することが必要である。そのために学校適応に関する分析ツールである『アセス』（栗原・井上、2016）を応用した。これは児童の学校適応感の状況を質問紙回答によって分析し、その数値やチャートから個々の児童や教室全体の実態を客観的に把握できるものである。『アセス』では6つの因子（生活満足感・教師サポート・友人サポート・向社会的スキル・非侵害的関係・学習適応）によって児童の学校適応の状態を分析するが、本プログラムを実施するにあたっては、特に人間関係面の適応感をは

かるものとして「友人サポート」と「向社会的スキル」の2つの因子が大きく関係していると考えた。「友人サポート」の数値は他者からポジティブな声掛けや評価によって良好な友人関係を築けているという自己評価が反映され、「向社会的スキル」の数値は自分がうまく他者と関わるスキルをもっており良好な人間関係を築けているという自己評価が反映されていると考えられる。この2つの因子が共に高い数値を示すとき、学級における人間関係は良好であると考えられる。これらの因子間の関係をふまえて対人適応マトリックス（図2）を作成し、対人適応の状態を把握できるようにした。

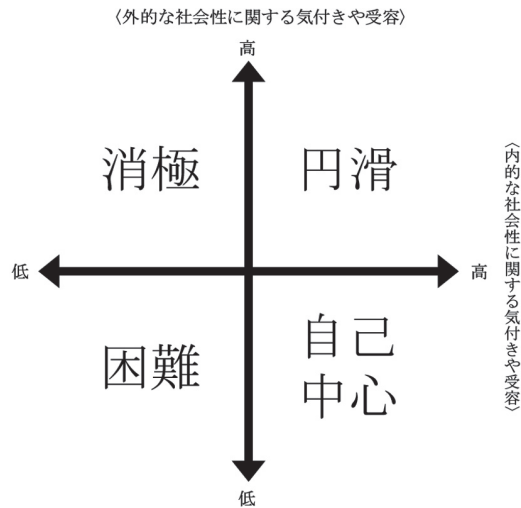


図2 対人適応マトリックス

図2における縦軸が「友人サポート」、横軸が「向社会的スキル」であり、両軸で区切られた各領域を「円滑」、「自己中心」、「消極」、「困難」とし、『アセス』を参照しながら各領域の内容を表3のように定めた。

サンプル・データ(仮想データ)を用いた対人適応マトリックスの作例が図3であり、個々の児童と学級全体の実態やその変容を客観的にとらえることができる。図3に示している「要自己評価支援」は「向社会的スキル」の数値が低い状態であるため、その領域にいる児童には、積極的にその児童の人との関わりの良さについて教員がポジティブな声掛けを行い、働き掛けていく必要があると考えられる。また、「要他者受容支援」は「友人サポート」の数値が低い状態であるため、その領域にいる児童には、他者との関わりにおいて相手からの声掛け等の受容の仕方について、教員による働き掛けや支援が必要と考えられる。

### (5) 「ハートフル研究所」とR-PDCAサイクルについて

これまで述べてきたプログラムの実施方法、社会性育成年間計画、振り返りシートとポートフォリオ、実態把握と効果測定を総合的に一体化させたものを本研究では「ハートフル研究所」と名付けた。「ハートフル研究所」の一年間の実践をR-PDCAサイクルとしてまとめれば次のようになる。まず、1学期・2学期・3学期の各学期始めや学期末に『アセス』を使った児童の実態把握を行い(R)、プログラムで扱う社会性のテーマを学校行事の特性と関連させながら検討する。次に社会性育成年間計画を作成して年間を通したプログラムの実施について見通しをもつ(P)。作成した社会性育成年間カリキュラムをもとに、朝の会においてプログラムを実施し(D)、振り返りシートを用いて自分自身の振り返りを積み重ねる(C)。振り返りを生かしながら再度プログラムに取り組む(A)。それらの成果を把握するために再び実態把握(R)を行い、前回の実態と比較することで社会性育成年間計画やプログラムについて見直し(P)、新たなプログラムの実践に取り組むという一連の流れを繰り返すことになる。

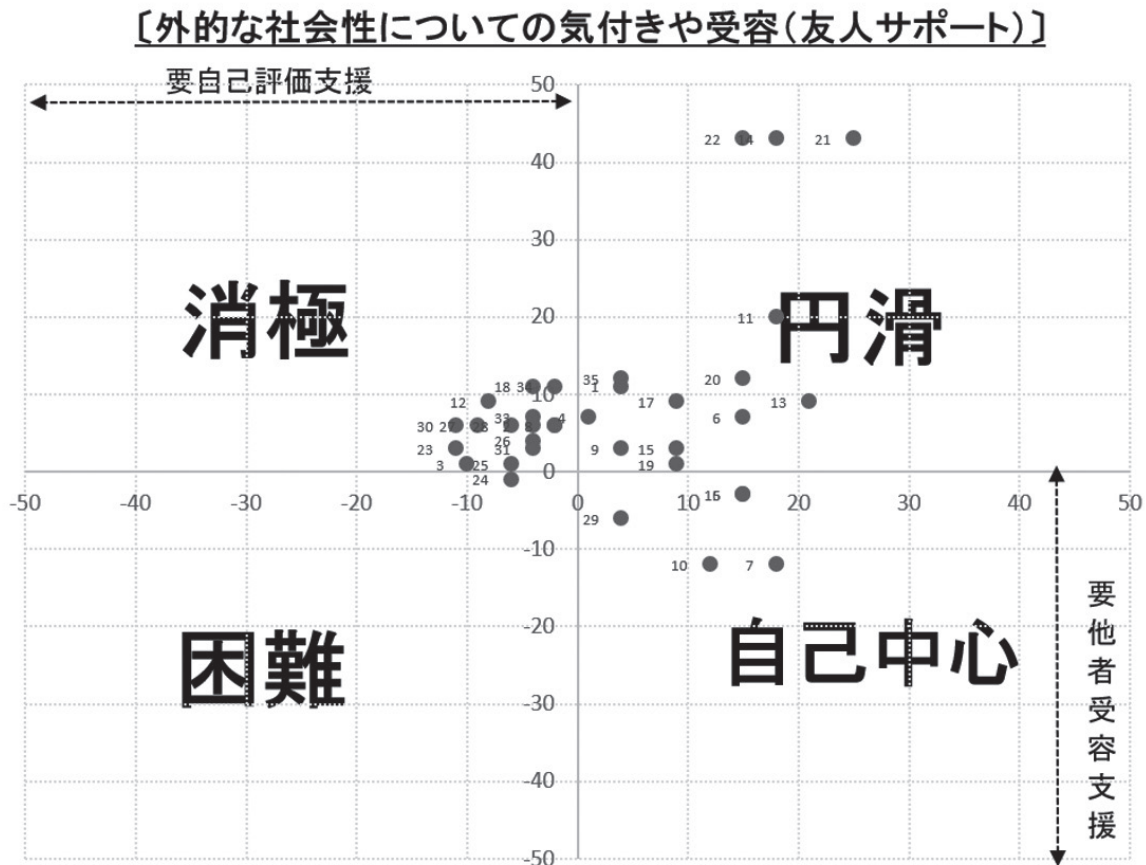
## 3 考察

### (1) 学級経営に資する持続可能な社会性育成プログラムの意義について

本論では小学校における学級経営に資するために、人間関係やコミュニケーション等に係る社会性の育成を目的としたショート・プログラム「ハートフル研究

表3 対人適応マトリックスにおける各領域の内容

領 域	内 容
円 滑	「友人サポート」と「向社会的スキル」の数値が共に高い状態である。学級における人間関係が円滑である状態を示す。
自己中心	「友人サポート」の数値が低く、「向社会的スキル」の数値が高い状態である。他者から受け入れられていると自己評価はできていないが、自分ではうまく人と関わるスキルをもっていると感じている状態を示す。
消 極	「友人サポート」の数値が高く、「向社会的スキル」の数値が低い状態である。他者から受け入れられているという自己評価はできているが、自分ではうまく人と関わるスキルをもっていないと感じている状態を示す。
困 難	「友人サポート」と「向社会的スキル」の数値が共に低い状態である。学級における人間関係が困難な状況にあることを示す。



内的な社会性についての気付きや受容(向社会的スキル)

所」を一つの実践モデルとして示した。その特徴は、導入が容易で、朝の会などにおいて継続的に短時間で実施でき、学校行事と連動させた多彩な社会性育成上のテーマ設定がしやすいことである。同様の目的をもつプログラムにはソーシャルスキルトレーニング（SST）やエンカウンターなどの手法を応用したものがあるが、カリキュラム上ほとんど時間的余裕のない学校において、日常的に繰り返し実施できるかどうかプログラム導入上の重要なポイントと考えられる。子どもたちの人間関係づくりやコミュニケーション・スキルの向上には多くの時間と繰り返しの経験や実際の学校生活との具体的な関連性が求められるからである。前者は持続可能性に係る要素であり、後者はプログラムの導入／参加における動機づけに係る要素ととらえることができよう。このプログラムを通して他者と交流して相互にコメントを交わすことが自分自身の対人関係について認識する機会になるとともに、ボー

トフォリオとして残る記録の蓄積が自己の変容や気づきを客観的にとらえるための手掛かりとなって、社会性の育成や個性を認め合う共生的姿勢の育成につながると考えられる。

教員にとっては、児童の社会性の育成の観点から学校行事を再認識し、小学校における系統的な指導や家庭支援の手掛かりになると期待される。学校・学級適応に困難をかかえる児童の家庭生活面に課題がある場合が少なくなく、小学校の6年間にわたって家庭との連携的な取組が不可欠となるからである。また、教員も一緒にこのプログラムに参加することによって、児童の個性や変化に気づくなどの児童理解が深まるとともに、教員と児童が相互にポジティブな気づきを伝え合うことによって教員と児童との関係性が深まり、児童の実態に応じた積極的な学級づくりや授業づくりに活かすことができると考えられる。

## (2) 今後の可能性と課題について

ショート・プログラム「ハートフル研究所」を実施するに際して、教員は学級の児童の実態を分析・把握しながら、毎日の学校生活や行事等を通して児童のどのような社会性を育成するかについて年間計画を立てることになる。こうした取組を学年や学校全体で共有することによって、発達段階に即した学校適応や社会適応の力を育成するための長期的な指導計画に発展させることが可能と考えられ、学校の喫緊の課題である不登校やいじめ対策等における安定した学校生活の基盤づくりにつながることが期待される。

現在、大瀧は新たな赴任先の担当学級（5年生）でもショート・プログラムの実践的取組を継続的に実践している。児童の参加の様子は良好で、A小学校と同様、導入はスムーズであった。新たな小学校は小規模校であり、クラス替えがないために児童同士は顔見知りでお互いを熟知していると思われたが、実際にプログラムを実践してみると、児童どうしが新たな一面を発見し合うなどの様子がみられている。また、学級内での人間関係に困難をかかえている児童の対人スキル面の課題が浮き彫りとなり、日々の学校生活における支援のポイントが明確になるなどの直接的な成果も得られている。

今後の課題としては、まずこのショート・プログラムが各学年で適用可能かどうかを検討する必要がある。安全面にも配慮しながら、学年に応じてプログラムで取り上げるテーマや振り返りの方法を工夫しなければならないが、特に低学年においては振り返りの方法をより負担の少ないものにすることが必要と考えられる。プログラムの効果の評価に関しては、年間を通しての学年ごとの効果と合わせて、各学年における取組の累積効果についても検討する必要があると考える。生徒指導や教育相談の取組に応用される支援プログラムは、継続的・持続的な実施可能性と系統的・計画的な効果の累積が求められるのであり、その観点の下に、本論で述べたショート・プログラムについてもなお開発と検討を進める必要がある。

## &lt;文献・資料&gt;

- 國分康孝（監修）相川充・小林正幸（編集） 1999 ソーシャルスキル教育で子どもが変わる、図書文化
- 栗原慎二・井上弥編著 2016 アセスの使い方・活かし方、ほんの森出版
- 大瀧優 2018 共生社会に生きる力を育む学級づくりの在り方—社会性を育てるカリキュラムの開発及び個性を認め合う振り返りの実践を通して—、平成30年度宮城教育大学教職大学院リサーチペーパー、13-14
- 大瀧優 2018 朝の会の活動を工夫した学級づくりに関する研究、平成30年度宮城教育大学教職大学院教材ミュージアム、59-65
- 宮城教育大学いじめ防止支援（BP）プロジェクト編 2018 子どもたちが育つインクルーシブ学級経営一年間（パンフレット）、宮城教育大学
- 文部科学省 2012 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）概要」([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/attach/1321668.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/attach/1321668.htm)、最終確認日 2019.7.29)
- 坂野公信監修 2017 学校グループワーク・トレーニング、図書文化
- 佐藤綾子 2014 非言語表現の威力、講談社現代新書
- 仙台市教育委員会 2019 仙台自分づくり教育 たく生き授業プラン集、仙台市

（令和元年9月27日受理）